



NISSOホールディングス株式会社（東証プライム市場 コード:9332）

2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

NISSO NISSOホールディングス
2026年2月

**NISSOHD、M&A効果により連結売上高と在籍人数が増加
事業規模拡大が進展、配当金据え置きで配当性向44.4%**

NISSOホールディングス株式会社 代表取締役社長執行役員 清水竜一

1 決算概要 (2026年3月期 第3四半期)**2 サービス別業績 (2026年3月期 第3四半期)****3 インダストリー戦略****4 日総グループの人材育成****5 日総グループ トピックス****6 今後の見通し (2026年3月期)****7 株主還元方針****8 財務状況 (2026年3月期 第3四半期)**

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

1

清水竜一氏：代表取締役社長執行役員の清水です。

ただいまより、2026年3月期第3四半期決算説明を行います。本日はご視聴いただき、誠にありがとうございます。本日は、スライドの目次に沿って進めます。

2026年3月期 第3四半期 サマリー

- 連結売上高及び在籍人数は、M&Aの寄与により増加も、連結営業利益は前年同期比で減少。全体の売上高の約4割を占めるオートモーティブの需要が弱く利益を押し下げたことが主な要因
- セミコンとエレクトロニクスは、一定の需要があり在籍人数、売上高ともに増加。ただし、伸びは想定には届かずオートモーティブの減少分を補うまでには至らず
- エンジニア系は、セミコンでの高スキル領域の稼働が想定より遅れており、人材育成コストの回収に至らず
- 求人市場における採用競争が激化し、採用効率が低下した

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

2

まず、サマリーです。連結売上高および在籍人数は、M&Aによるプラスの効果で増加しました。一方で、連結営業利益は前年同期比で減少しています。

主な要因として、全体の売上高の約4割を占めるオートモーティブインダストリー（自動車・EV関連）の需要が、米国関税などの影響を受けて非常に弱く推移したことが挙げられます。

セミコンダクターインダストリー（半導体・半導体製造装置関連）とエレクトロニクスインダストリー（通信機器・電子部品）では一定の需要があり、在籍人数、売上高ともに増加しています。

しかし、当初想定していた伸びには達しておらず、オートモーティブインダストリーの減少分を補うレベルには至っていません。

また、エンジニア系は、特にセミコンダクターインダストリーにおいて高スキル領域の稼働を想定していましたが、予定より後ろ倒しとなったことで、人材育成コストなどの回収には至りませんでした。

この理由としては、主要顧客である半導体メーカーの新工場稼働が想定より遅れたことや、半導体装置メーカーが当初計画していた稼働レベルに至らなかったことなどが挙げられます。

求人市場における採用競争が非常に激化したことなどにより、採用効率が低下したことも大きな要因です。

ポイント

- ・売上高は、M&Aの寄与による在籍人数の増加もあり前年同期比で8.1%増加。
- ・販管費では、M&Aによる販管人件費、システム投資、グローバル人材活用に向けた投資等の増加により11.1%増加。

	25年3月期 第3四半期		26年3月期 第3四半期		前年同期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	76,350	100.0%	82,569	100.0%	6,218	8.1%
売上総利益	13,099	17.2%	13,794	16.7%	694	5.3%
販管費	10,437	13.7%	11,597	14.0%	1,159	11.1%
営業利益	2,662	3.5%	2,197	2.7%	△465	△17.5%
経常利益	2,660	3.5%	2,192	2.7%	△467	△17.6%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,606	2.1%	1,268	1.5%	△338	△21.0%

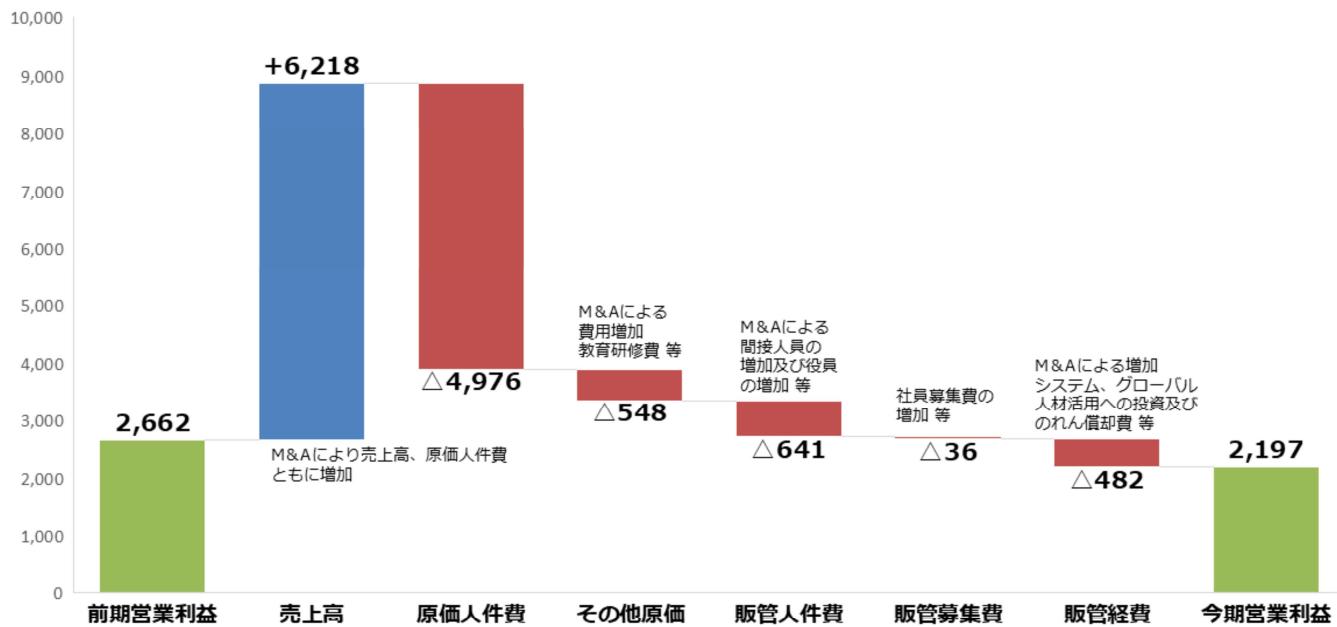
Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

3

連結業績ハイライトです。スライドのとおり、売上高は前年同期比8.1パーセント増加しましたが、販管費がM&Aに伴い大幅に増加し、前年同期比11億5,900万円の増加となりました。

その結果、売上総利益は前年同期比6億9,400万円増加したものの、販管費の増加が利益を圧迫したため、営業利益は前年同期比で4億6,500万円の減少となっています。

連結営業利益 前年同期比 (単位：百万円)



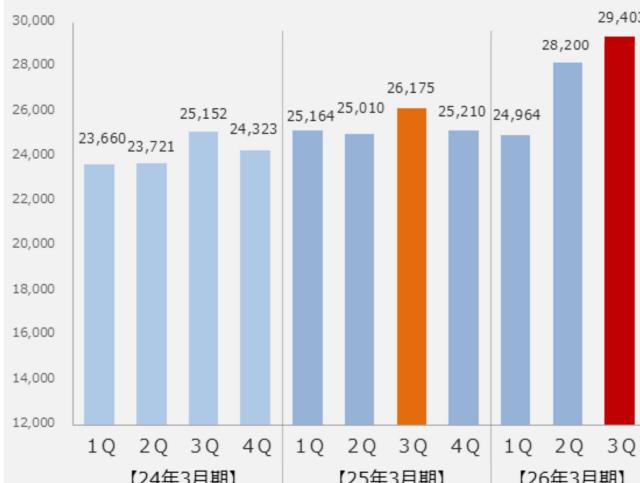
Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

4

営業利益が前年同期比で減少した要因についてです。前年同期と比べて、原価および販管費がどのような影響を与え、本期の営業利益に至ったかはスライドのとおりです。後ほどご覧ください。

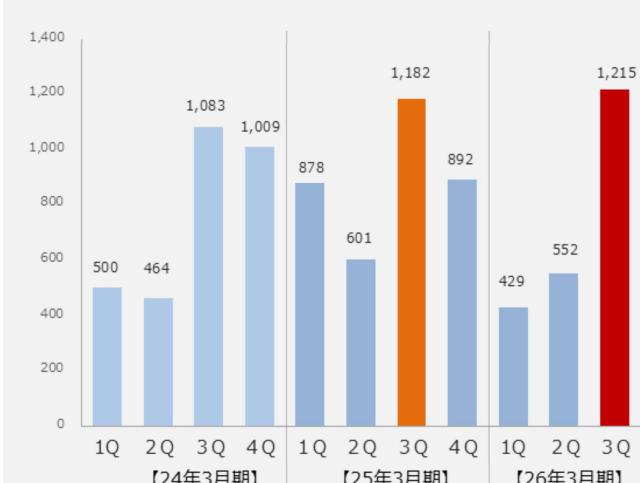
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

5

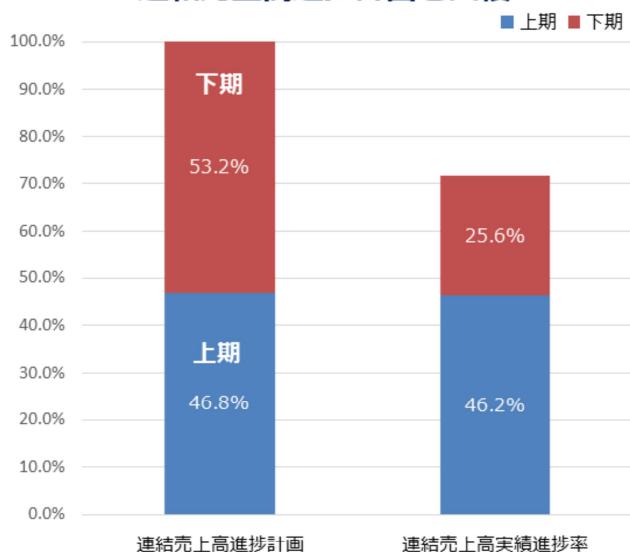
スライドからおわかりいただけますように、売上高はM&Aの効果もあり、第2四半期以降プラスに転じています。一方、営業利益は、稼働状況やその他の影響により非常に厳しい状況が続いていました。

しかし、第1四半期、第2四半期は前年同期比で大幅な減益となっていたものの、第3四半期にはようやく営業利益が前年水準に追いつき、追い越しました。

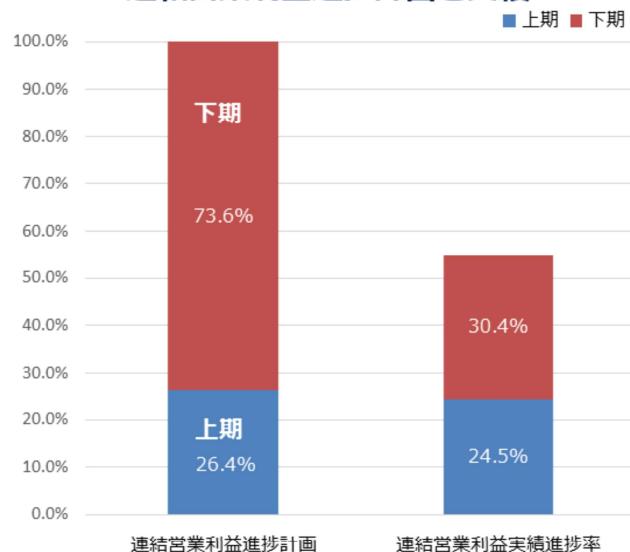
当初計画より、オートモーティブインダストリーやセミコンダクターインダストリーの進捗が遅っていましたが、ようやく底を打ち、追いつき始めたところです。

また、後ろ倒しとなっていた増産や増員の計画も、第3四半期で底を打ち、第4四半期から徐々に回復に向かっていることを申し添えておきます。

連結売上高進捗計画と実績



連結営業利益進捗計画と実績



連結売上高及び連結営業利益は、オートモーティブの需要停滞による在籍遅れ
エンジニア系の稼働不足の影響により計画に対し遅れが生じている

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

6

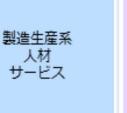
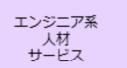
スライドは、売上高および営業利益の進捗計画と実績について、上期と下期の状況を示しています。以前からお伝えしているとおり、下期に利益が偏重していることは間違ひありません。

しかし、先ほどお話ししたオートモーティブインダストリーにおける需要停滞の影響が在籍人数の増加に波及し、それが売上高に影響を与えています。

さらに、エンジニア系人材サービスでは特にセミコンダクターインダストリーを重点領域としているため、計画の遅れによる稼働不足が営業利益に大きな影響を与えています。このことはスライドのグラフから読み取つていただけると思います。

サービス別業績：グループ会社一覧

 NISSO Holdings

NISSO Holdings		NISSO Holdings株式会社	
 NISSO 日総工産株式会社	日総工産株式会社	製造派遣、製造請負、職業紹介等	 
	株式会社ベクトル伸和	製造請負、製造派遣 等	
	株式会社アイズ	製造派遣、ITエンジニア派遣、FA支援 等	
	日総ブレイン株式会社	事務系派遣、BPO 等	
	株式会社ニコン日総プライム	人材派遣、人材紹介 等	
	日総びゅあ株式会社	軽作業請負、物販 等	
 MantoMan Holdings		MantoMan Holdings株式会社	
 MantoMan 株式会社	MantoMan 株式会社	製造派遣、製造請負、職業紹介等	 
	MAN TO MAN Vietnam Co.,Ltd.	人材紹介 等	
	MantoMan Assist	MantoMan Assist 株式会社	
	 animo style	生産受託・物流受託 等	
	 TECHPORT テックポート株式会社	Webシステム開発・行政受託事業等	
	日総二フティ株式会社 オールジャパンガード株式会社	テックポート株式会社 施設介護、在宅介護 等 施設警備・交通警備 等	
その他の関連会社	株式会社ツナググループ・ホールディングス 株式会社LeafNxt 株式会社SUBARU nw Sight 株式会社フォース		その他のサービス

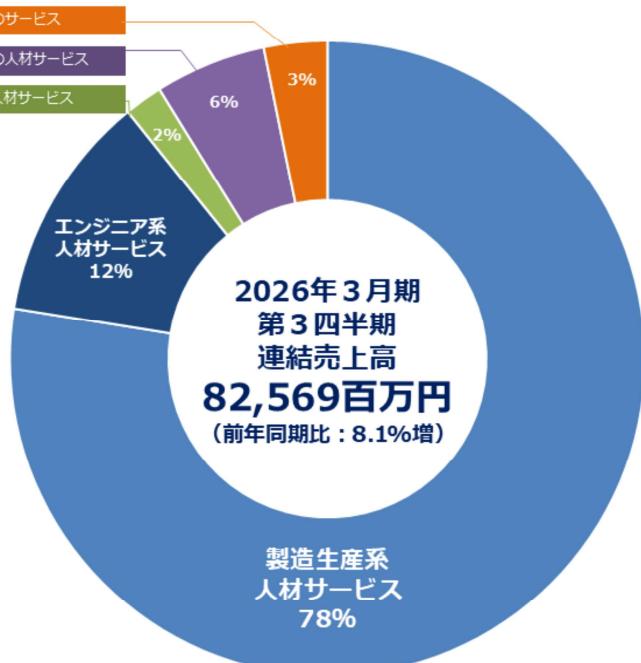
Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

こちらのスライドは、グループ会社一覧です。後ほどご覧ください。

サービス別業績：サービス別売上高

※内部取引は消去

NISSO NISSOホールディングス



Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

8

サービス別売上高の構成比を示す円グラフです。構成比はほぼ変わらずに推移しています。

ポイント

3Qの製造生産系の売上高は、M&Aの寄与に伴う在籍人数の増加もあり前年同期比で14.2%増加。
(3Q累計では8.3%増加)
売上総利益率は、前年同期比で0.3
ポイント低下も改善基調。



Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

9

製造生産系人材サービスについてです。売上高は、第2四半期からMan to Manホールディングス社のグループに伴い、売上高、在籍人数ともに増加しています。

そのような中で、本期の売上総利益率はあまり芳しくない状況が続いているものの、第1四半期の17.0パーセントから徐々に回復の兆しが見えてきています。

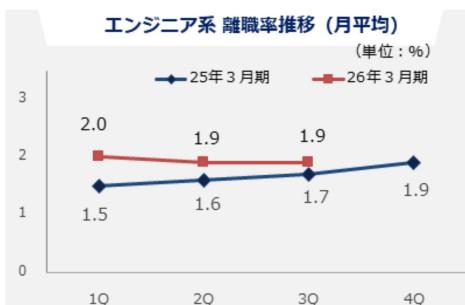
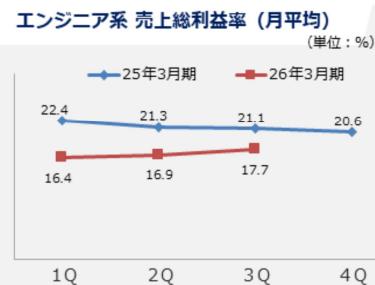
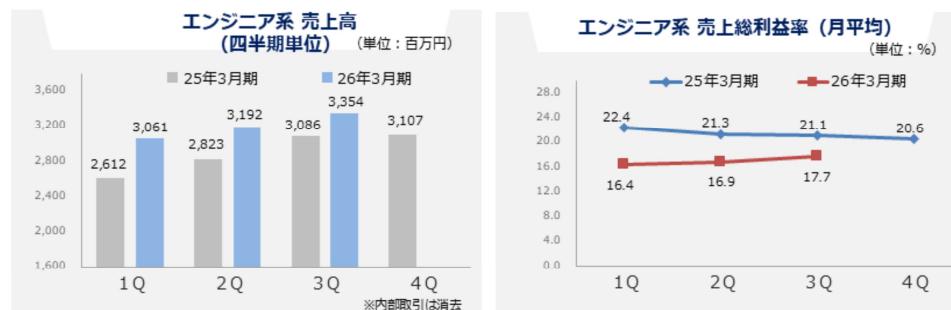
また、製造生産系の1人当たりの月平均売上高は、稼働状況が芳しくない中でも単価アップが非常にプラスに作用し、前年同期を上回っています。さらに、前年と比較して徐々に売上高が増加していることをご確認いただけたと思います。

このことから、今後稼働状況が正常化した際には、さらにプラスに作用するとご理解いただいて問題ないと考えています。

また、製造生産系の離職率は、前年とおおむね同じ水準で推移しており、大きな問題はないと考えています。

ポイント

3Qのエンジニア系の売上高は、在籍人数の増加もあり、前年同期比で8.7%増加（3Q累計では12.7%増加）、一人当たりの売上高は残業時間の減少もあり前年同期比で減少も改善基調。一方で売上総利益率は、ジュニアエンジニアの育成コストの影響もあり、前年同期比で3.4ポイント低下も改善基調。



Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

10

エンジニア系人材サービスについてです。前年比で見ると順調に伸びているものの、今期のエンジニア系における最大の課題は、売上総利益率が低いことでした。

しかし、半導体関連のプロジェクトが動き始めていることや、稼働状況が徐々に回復していることもあり、以前からお伝えしているとおり、四半期を追うごとに収益の回復が進んでいます。

エンジニア系の1人当たりの月平均売上高は、前年と比べてまだ低いものの、徐々に差が縮まってきています。このことからも、稼働状況が正常化に向かいつつあると考えています。

特に、離職率の推移は前年の水準に追いつきつつあります。年度末までに離職率のさらなる低減を図っていきたいと考えています。

事務系人材サービスについて

3Qの事務系の売上高は、在籍人数の減少もあり前年同期比で7.2%減少。



事務系 期末在籍人数



その他の人材サービスについて

- ニコン日総プライムは、プライム社員の活躍を支援。

3Qのプライム社員数は718名。

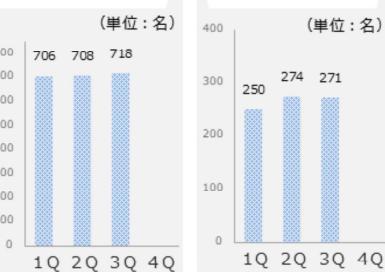
※プライム社員：高年齢者社員

- 日総びゅあ及びMan to Man Animoは、多様な人材が活躍できる職場環境を構築。

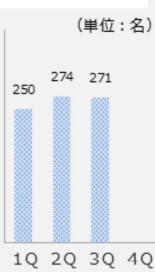
3Qの障がい者社員数は271名。



プライム社員数



障がい者社員数



Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

11

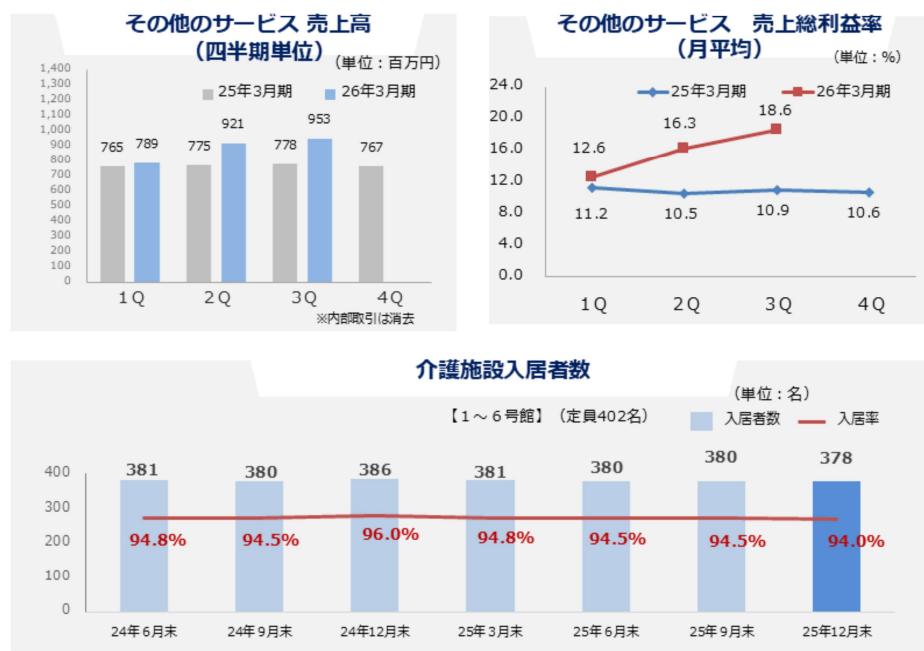
事務系・その他の人材サービスについてです。事務系の人材サービスに関しては、みなさまご承知のとおり、AIの進化に伴い、徐々に減少傾向にある状況です。後ほどご確認ください。

一方で、その他の人材サービスは、Man to Man Animo社がグループインしたこと、障がい者社員数が前年同期比で増加しています。

また、プライム社員、いわゆる高年齢者の活躍領域は、特に取引先であるニコン日総プライム社との合弁会社がメインとなっています。併せてご確認いただければと思います。

ポイント

- その他のサービスでは、介護・福祉サービス、警備に加え、製造系システム開発受託などを展開。
- 3Qのその他のサービスの売上高は、M&Aの寄与による増加もあり前年同期比で22.5%増加。
- 最も売上高の大きい介護・福祉サービスでの介護施設全体の入居率は、94.0%と引き続き高水準で推移。
- 売上総利益率は、前年同期比で7.7ポイント改善。



Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

12

その他のサービスの介護・福祉・警備等についてです。従来、我々が行っていた介護・福祉サービスに加え、オールジヤパンガード社がグループインしたことによる警備系、さらにMan to Manホールディングス社に関連する会社が手掛ける製造系のシステム開発の受託が含まれています。

スライドからおわかりいただけたとおり、売上高は順調に推移しています。特に注目すべき点は、グループインした新たなサービスの収益性が高いことにより、売上総利益率が大幅に改善されている点です。このことはグラフから読み取っていただけると思います。

また、介護施設の入居率は94パーセント程度と非常に高い水準で推移しています。

第3四半期 インダストリー別 連結売上高構成比

(単位：百万円)

■オートモーティブ ■セミコンダクター ■エレクトロニクス

8,455 (11.1%)	+0.6%	8,503 (10.3%)
10,033 (13.1%)	+13.1%	11,346 (13.7%)
30,917 (40.5%)	△2.4%	30,161 (36.5%)

【25年3月期 3Q】

※（ ）内%は連結売上高比、赤字の%は、前年同期比伸長率

【26年3月期 3Q】

第3四半期 インダストリー別状況※前年同期比

オートモーティブ インダストリー (自動車製造・ EV関連製造業界)	セミコンダクター インダストリー (半導体製造業界)	エレクトロニクス インダストリー (電子機器製造業界)
売上高	減少	増加
在籍 人数	減少	増加
稼働 状況	増加	減少
要員 状況	増加	横ばい
		横ばい

- ・オートモーティブは、需要は緩やかに回復基調も、採用環境の悪化により3Q時点では在籍人数の増加に至らず
- ・セミコン・エレクトロニクスは、前年同期比で在籍人数は増加、足元の要員需要は横ばい

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

13

インダストリー別の売上高についてです。冒頭でお話ししたとおり、自動車業界は非常に厳しい状況が続いている、その様子はスライドの棒グラフにも表れています。オートモーティブインダストリーの売上高は前年同期比マイナス2.4パーセントでした。

一方、セミコンダクターインダストリーの売上高は前年同期比プラス13.1パーセントとなりました。

棒グラフ上では非常に伸びているように見えるかもしれません、国内での新たな半導体工場の稼働や半導体製造装置の稼働の上昇を踏まえると、我々が想定していたほどの伸びは見られなかったという状況です。

エレクトロニクスインダストリーは、前年同期からほぼ横ばいとなっています。今後、半導体の普及が進めば、それに連動して後から大きく成長するインダストリーであると考えており、今後の成長に期待できるのではないかと思います。

パーセンテージで見ると非常に伸びているように見えますが、オートモーティブインダストリーの不足分を補うには至っていません。

オートモーティブインダストリー (自動車製造・EV関連製造業界)		セミコンダクターインダストリー (半導体製造業界)		エレクトロニクスインダストリー (電子機器製造業界)	
設備投資	くもり 	足踏み	晴 	拡大	くもり 
生産動向	くもり 	増産・減産が混在	曇時々晴 	緩やかに増加	くもり 
稼働動向	くもり 	通常稼働	晴 	通常稼働	晴 
要員動向	曇時々晴 	増員・停滯が混在	曇時々晴 	緩やかに増員	くもり 

当社想定より遅れが生じているものの、AI・データセンター関連のセミコンの動きは活発になりつつある。

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

※更新箇所：赤色

14

インダストリー別の動向についてです。ここでは第2四半期決算時からの変化点をお伝えします。

オートモーティブインダストリーの要員動向は、米国関税の問題がようやく落ち着き、来年度に向けて台数を増やしながら利益額をなんとか確保しようとする戦略も相まって、今後の展望としては曇りから薄日が差してきている状態といえます。

また、セミコンダクターインダストリーの天気図は前回と変わりませんが、想定より遅れはあるものの、AIやデータセンターに関連した動きが活発になりつつあります。

加えて、直近の非常にプラスのニュースとして、熊本エリアで最先端半導体の製造準備がいよいよ始まりました。こちらも今後のセミコンダクターインダストリーの成長にプラスに作用すると考えています。



Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

15

スライドには、我々の人材育成において非常に重要な役割を果たすテクニカルセンターおよびトレーニングセンターの全国拠点を示しています。大きな変化はないため、後ほどご覧いただければと思います。

● 2026年3月期 第3四半期 教育実績（延べ人数）

ポイント

- エンジニア系研修は、前年同期比で減少。
※前年同期：1,465名
- NISSO HR Development Service（外部社員研修）のニーズは季節性があるものの順調に拡大。
※前年同期：279名

区分	研修内容	26年3月期 第3四半期
(直接系) エンジニア系研修	製造設備保全・製造設備技術 機械設計・生産技術 産業用ロボット特別教育等	1,400名
(直接系) 製造生産系研修	ものづくり教育 職長教育 危険体感教育等	10,949名
(直接系) その他研修	コンプライアンス定期教育 キャリア支援研修 資格（レベルアップ）研修等	2,922名
介護・福祉研修	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修 事故発生防止リスクマネジメント研修 感染症・食中毒予防研修等	1,826名
合 計		17,097名
外部社員研修（受託）	機械保全基礎 製造設備基礎 危険体感教育等	842名

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

16

日総グループ全体の人材育成における教育実績についてご説明します。

エンジニア系の研修は、前年同期比で65名減少しています。現在は半導体エンジニアの活躍領域がまだ不十分であるという判断から、少しブレーキを踏んでいるという状況だとご理解いただければと思います。

一方、我々が今後成長を見込んでいる外部社員研修では、メーカーの新入社員研修や社員のリスクリミングなどを支援しています。前年同期の279名に対し、本期は842名と大幅に増加しています。

このような教育研修の評価を得ながら、今後さらにスケールさせていきたいと考えています。



**オリコン顧客満足度ランキング
「工場・製造業派遣」で4年連続総合1位！**

- ・日総工産が、2026年オリコン顧客満足度®調査「工場・製造業派遣」において総合第1位を受賞
- ・実際に就業頂いた方の評点によりランキングされたものであり、昨年に続き評価項目全項目で第1位を獲得

調査結果・順位の詳細は[こちら](https://career.oricon.co.jp/rank_staffing_manufacture/)をご覧ください。

URL : https://career.oricon.co.jp/rank_staffing_manufacture/



「日総グループ サステナビリティ報告書2025」を発行

- ・CSR報告書から数えて通算6回目となる「日総グループ サステナビリティ報告書2025」を発行
- ・社会課題の解決に向けた取り組みを紹介
- ・特集では、Man to Man Animo・日総びゅあ両社の「障がい者雇用の現状と未来」についての対談を掲載

日総グループ サステナビリティ報告書2025

URL : <https://www.nisso-hd.com/ir/library/others.html>

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

17

トピックスについてです。まず、これまでにもご説明しているオリコン顧客満足度ランキングにおいて、4年連続で総合1位を受賞しました。これは、実際に工場の生産系に関わる人材会社で働いた方々から高い評価をいただいた結果です。

このような実績を労働市場や応募の方々に広くアピールし、ブランディングを進めていきたいと考えています。

次に、「日総グループ サステナビリティ報告書2025」の発行についてお話しします。

今回は特に社会課題の解決に向けた取り組みを紹介しています。また、昨今課題となっている障がいの方々が活躍する領域について触れています。

従来のグループ会社である日総びゅあ社と、新たにグループに加わったMan to Man Animo社の両社長による「今後の障がい者雇用をどう考えたらいいのか？」をテーマにした対談記事も掲載しています。お時間のある際にぜひご覧ください。

URLはスライド右下に記載されていますので、ご確認いただければと思います。

米国関税等の影響による自動車関連の需要減及び半導体関連の新工場の稼働遅れにより縮小していた人材ニーズは、直近では回復の兆しが見られるものの、今期の計画を達成できるレベルの人材ニーズは見込めない状況と判断し、2025年5月12日に公表した2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の通期連結業績予想を修正いたしました。

※詳細につきましては、2026年2月9日に公表いたしました「2026年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

●2026年3月期 通期連結業績予想数値（2025年4月1日～2026年3月31日）

(単位：百万円)

	前回発表予想		今回発表予想		前回発表予想比	
	予想	百分比	予想	百分比	増減額	増減率
売上高	115,000	100.0%	112,000	100.0%	△3,000	△2.6%
営業利益	4,000	3.5%	3,300	2.9%	△700	△17.5%
経常利益	4,000	3.5%	3,300	2.9%	△700	△17.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,500	2.2%	1,900	1.7%	△600	△24.0%

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

18

今期の通期見通しについてお伝えします。

期初の通期見通しに対して、売上高は30億円、営業利益は7億円の未達見込みという状況です。この件について、我々は先んじて「米国関税の影響によって自動車関連の需要は少し停滞するだろう」と厳しめに予測していました。しかし、実際には想定以上に国内での自動車製造が厳しい状態となりました。

この状況が我々の外部労働力の活用という領域に非常に大きな影響を与えたこと、また、回復の見通しが立ち始めている状況下にあっても、国内での自動車製造の伸びあがりが後ろにずれ込んでしまったことが、1つの大きな要因です。

2つ目の要因は、先ほどからご説明している半導体関連の新工場の稼働遅れによるものです。プロジェクトとしては2027年に量産の計画でしたが、そのボリュームアップが後ろ倒しになっていることや、米中の霸権争いが半導体の製造装置の売れ行きに影響を与えたことが大きく響いています。

このことにより、我々が想定していたタイミングよりも売上高および利益の伸びが後ろ倒しとなり、今回の下方修正に至っています。

しかし、年末年始にかけて明るいニュースもありました。自動車メーカーおよび自動車部品メーカーから増員のオーダーを受けており、この状況も年末から年始にかけた時期に底を打ち、反転し始めているという情報を得たため、ここから挽回に転じていきたいと考えています。

今後、半導体領域や自動車領域の一部においても、エンジニアを積極的に活躍させていきたいという我々の思いがようやくスタートラインに立ち、これから攻めに転じることができるのではないかと期待しています。

一方で、現在の労働市場に目を向けると、少子高齢化の中、サービス業やインバウンドに関連するホテルなどで人手不足が顕著になっており、製造業で働いていただける人材の確保が非常に厳しい状況にあります。この点について、今後打開策を講じる必要性が高まっています。

また、昨年から積極的に進めている外国人材活躍推進の取り組みについても、今後の回復基調の中でエンジニアを中心に活躍していただくことがプラスの要素につながると考えています。

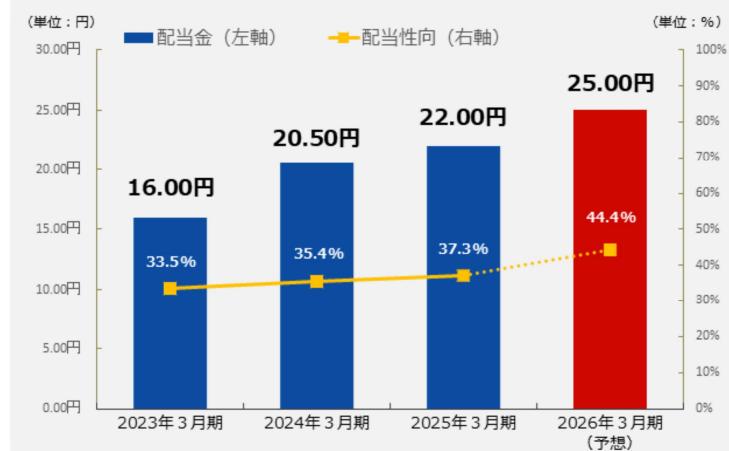
基本方針

当社は、株主に対する利益還元と企業価値の向上を経営の重要な課題と位置付けており、連結配当性向30%以上を目安に株主の皆さまへ安定した利益還元を継続することを基本方針としております。

2026年3月期の配当予想

1株当たり配当金額は25.00円（連結配当性向は44.4%）を予定しております。

配当金と配当性向



Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

19

株主還元方針についてです。利益は2割弱下方修正しましたが、配当は従来お約束している25円を据え置き、配当する方針です。

結果として配当性向は44.4パーセントとなります。今後の回復などを踏まえると、当初お約束している25円の配当は妥当と判断し、据え置くこととしました。

今後も配当性向を重要な経営課題と位置づけ、増配を継続できる体制を構築していきたいと考えています。引き続き、どうぞよろしくお願ひします。

財務状況：連結貸借対照表

 NISSO ホールディングス

(単位：百万円、%)

ポイント

①企業結合

株式の取得に伴う連結子会社の増加により、資産及び負債が増加。

②納税

法人税等他の納税により、流動負債の「未払法人税等」が減少。

③賞与支給

賞与引当対象期間が短いため、流動負債の「賞与引当金」が減少。

④借入・返済

短期運転資金の調達により、流動負債の「短期借入金」が増加。また、借入金の約定返済により固定負債の「長期借入金」が減少。

⑤全体

上記の結果、前期末比で資産合計が19.1%増加、負債合計が34.1%増加、純資産合計が6.1%増加となり、自己資本比率は47.0%。

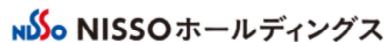
	25年3月末		25年12月末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	20,408	65.3	23,741	63.8	3,332
現金及び預金	8,186	26.2	9,607	25.8	1,421
受取手形及び売掛金	11,223	35.9	12,308	33.0	1,084
固定資産	10,867	34.7	13,499	36.2	2,631
有形固定資産	5,337	17.1	5,560	14.9	222
無形固定資産	1,414	4.5	3,523	9.5	2,108
投資その他の資産	4,115	13.2	4,416	11.9	300
資産合計	31,276	100.0	37,241	100.0	5,964
流動負債	12,233	39.1	16,958	45.5	4,724
短期借入金	-	-	3,500	9.4	3,500
未払費用	6,174	19.7	7,856	21.1	1,682
未払法人税等	771	2.5	98	0.3	△673
賞与引当金	1,551	5.0	935	2.5	△615
固定負債	2,247	7.2	2,468	6.6	220
長期借入金	1,038	3.3	670	1.8	△367
負債合計	14,481	46.3	19,426	52.2	4,944
株主資本	16,399	52.4	17,427	46.8	1,027
非支配株主持分	295	0.9	295	0.8	0
純資産合計	16,795	53.7	17,815	47.8	1,019
負債純資産合計	31,276	100.0	37,241	100.0	5,964

Copyright © 2026 NISSO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved

20

スライドは財務関連の貸借対照表です。後ほどご覧ください。

働きものを、幸せものに。



本資料で記述している将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

〈IRに関するお問い合わせ先〉

NISSOホールディングス株式会社 広報・IR部

電話 045-777-7630 E-mail ir@nisso-ir.com URL <https://www.nisso-hd.com>

以上で、私からの第3四半期の決算説明を終了します。ご清聴いただき、誠にありがとうございました。